



古典的ルートに遊ぶ

南アルプス 池山吊尾根～北岳(敗退)

大田原

【日時】 2010年12月28日(火)～30日(木)

【メンバー】 L大田原、國田

年末にうまく休みが取れた。3日あれば、と北岳を目指すことにした。しかし普通の社会人の休みは29日からである。メンバーは集まらないかな、と諦め半分に募集したら、國田さんが参加してくれることになった。出発前に、昔買ったガイド本を読むと、ちょうど北岳のガイドを手嶋会長が書いていて、一人うけてしまった。

前夜は甲府の実家に泊まり、愛犬をデポして夜叉神の森へ向かう。さすがに車は一台もないし、雪もない。久しぶりの重荷を担ぎ、長いトンネルくぐりからスタート！トンネル内は真っ暗で、反響のせいで本当に薄気味悪い。単独だったら間違いないトンネル敗退だろう。天気は悪くなく、林道から目指す北岳が遠望できる。特に苦労もなく鷲ノ巣山を越え、野



【南アルプス林道より北岳、間ノ岳】

呂川にかかる吊橋を渡ると、いよいよ取り付きの歩き沢橋である。ここは本当にスタート地点に立つまでが長い。すぐにここに立てれば楽なのになあ。手前の枝沢で水を補給し、うっすら雪のつく登山道を登り始めると、早々に國田さんが辛そうになる。2泊の荷物を抱えている上、体調不良であるということだ。まあ、行けるとこまで行ってテントを張ればいいかと地道に高度を上げると、道はなだらかになり、池山御池に至る。トレースが残っており、直前の連休に人が入ったようであった。雪は深くないが、トレースがあつて助かる。小屋の中で休憩した後、少しでも高度を上げようと、小屋の右手の斜面に続くトレースに踏み込む。城山を越えると風が強いのかな、という思いと疲れとあつて、城山手前の稜線直下の広い肩にテントを張ることにした。風も来ないし広く平らで、快適そのもの。これだけトレースがはっきりしていたら、翌日の頂上は余裕だろうと思っていたら、夕方から雪が降り始め、ずんずんと積もっていったのだった…。

翌朝、新雪が50センチは積もったろうか。トレースなんて完全に埋もれている。それでも、森林限界を超えれば楽になるさとラッセルを始める。國田さんは今日も体調が

すぐれないらしい。それでも一步一步進めてくれるのがありがたい。トレースを踏んでいる感触があれば膝程度にしか潜らないが、ひとたびそれをはずすと腰まで埋まってしまうし、トレースを再び見出すのも大変だ。せっせっせと雪をかき分け進むが、遅々として進まず、時間は刻々と過ぎていく。森林限界にようやく飛び出したと思ったが、まだまだラッセルは続き、ボーコン沢の頭に出る頃には11時近くになってしまった。天気は悪化傾向にあり、八本歯の頭はうっすら見えるが北岳山頂方面は臨めない。この先は雪稜チックになりラッセルもそれほどでもなさそうだったが、速いペースで歩いて、ここまで引き返すまでに日が暮れてしまいそうである。ボーコン沢の頭で國田さんを待つ間、頭の中でシミュレーションを繰り返し、引き返すことに決めた。ずっと行きたかった山頂だけど、この天気、この時間で無理をしてはいけない。自分に言い聞かせてから、國田さんに告げた。



【ボーコン沢の頭までも遠い…】

風はピューピュー吹いており、零下10℃までOKなデジカメは懐から出して

一瞬で電源が入らなくなった。写真も撮れないまま往路を引き返す。下りは早い。自分らのラッセル跡をサクサクと踏み、あっという間にテントに戻ってきてしまった。午後のひとときをのんびりとテントで過ごし、反省会を開いた。

3日目の今日は下山するのみである。早朝に通過したパーティーがあるようで、新しい踏み跡があった。これまた下山はサクサクと、御池を過ぎ高度を下げていく。急な下りは滑りそうで緊張するが、あっという間に野呂川まで。林道では我々をクラクションで蹴散らすように通り過ぎる車があった。広河原方面へ、何しに行く人だろう。ちょっと気分を害されながら、鷲ノ巣山への登りも耐え忍ぶようにこなし、夜叉神に帰りついた。林道ではカモシカが困ったような顔をしながら私たちを見送っていた。

そうそう、あの長いトンネルは、帰りもまた怖かった…。再計画したいが、トンネルをまた通らなければならないと考えると、二の足を踏む私であった。

【行程】

12/28 夜叉神の森(6:40)～鷲ノ巣山入口(7:45)～野呂川吊橋(8:55)～歩き沢橋(9:35)～池山御池小屋(13:05)～テン場(14:30)

12/29 テン場(6:35)～ボーコン沢の頭(10:45)～テン場(12:55)

12/30 テン場(6:45)～鷲ノ巣山入口(10:30)～夜叉神の森(11:30)

【地図】夜叉神峠、鳳凰山、仙丈ヶ岳、間ノ岳